

## 保護者支援と保護者理解を高める学びのあり方

駒沢女子短期大学保育科 川口 めぐみ

### 研究の背景と目的

平成 29 年 3 月 31 日に告示、改定された「保育所保育指針」は、「保護者に対する支援」から「子育て支援」に変わり、子育て家庭の現状とニーズを把握しながら地域と連携し支援する重要性が明記された。こどもや親の育ちに最も身近な保育士は、子育て支援の専門家として重要な社会的役割を担っており、社会や家庭の状況を的確に把握しながら、ふさわしい対応をしていく知識とスキルが必要となる。

「子育て支援」という言葉は、さまざまな保育サービスを含む広義の意味で用いられることが多いが、本来は「相談」という意味が含まれている(石川・堀, 2010)。子育て支援の本質が「相談」であるならば、保護者からの相談に対応するスキルや姿勢も重要な専門性となる。しかしながら、ベネッセ教育総合研究所(2016)の調査によると、幼稚園や保育所が子育て相談できる場所になってほしいと 6 割以上の保護者が感じており、その傾向は 2000 年からほとんど変化していない。つまり、6 割以上の保護者は、保育所や幼稚園は子育て相談できる場所かというところではないと感じているということである。

本研究は、社会が求める保育士の子育て支援力と、保護者が感じている現実とのギャップをなくすため、①保育者養成における子育て支援に関する実践的学びの現状(調査 I)、②子育て支援力を高めるために必要な経験(調査 II)、③子育て中の保護者の心理(調査 III)、④子育てを支える地域資源のありかた(調査 IV)の 4 つの視点から総合に研究を行った。

Figure 1 保育実習における子育て支援につながる学びの有無

|      | あり         | なし         |
|------|------------|------------|
| 1 年生 | 24 (35.8%) | 43 (64.2%) |
| 2 年生 | 9 (19.1%)  | 38 (80.9%) |

### 調査 I

#### 方法

対象者 公立保育所実習生 67 名(1 年)、私立保育園実習生 47 名(2 年)の合計 114 名(平均 19±2.8 歳)の保育者養成校に通う女子学生。

質問紙 保育実習において経験し学ぶことのできた子育て支援に関する事項、また、子育て支援を実際に行うことに対する不安度(「1.とても不安」～「5.あまり不安ではない」)5 件法。

手続き 調査の目的について説明を行い、協力が得られた学生に対し実施。個人情報保護やデータの取扱などについて説明し、インフォームドコンセントを得て質問紙を配布、無記名で回収した。

#### 結果と考察

調査の結果、子育て支援力につながる学びがあったと感じたのは 1 年生 35.8%、2 年生 19.1%だった(Fig 1)。具体的に学んだ内容については、「連絡帳を実際に見て書き方を指導してもらった経験」「こどもを迎えにきた保護者とのやりとりを側で見る経験」が多く(Fig 2)、私立園よりも公立園で経験している傾向にあることが明らかとなった。子育て支援を行うことへの不安は 2 年生  $M=1.72$  ( $Me=1$ )、1 年生  $M=2.01$  ( $Me=2$ ) となり、どちらの学年においても不安は高かった ( $p=0.07$ )。

Figure 2 保育実習における子育て支援につながる具体的な学びの内容

| 保護者理解の具体的経験         | 1 年生 | 2 年生 |
|---------------------|------|------|
| 保護者と保育士のやりとりを観察     | 9    | 3    |
| 連絡帳を用いた保護者とのやりとりを観察 | 0    | 1    |
| 保育士同士の話し合い・連携場面を観察  | 1    | 1    |
| 保護者の不安や悩みを保育士から学ぶ   | 1    | 1    |
| 保育士から保護者支援の方法を学ぶ    | 1    | 0    |
| 連絡帳を見ながら書き方を学ぶ      | 9    | 3    |
| クラス便りや献立表を見て学ぶ      | 2    | 0    |
| アレルギー児へのお便りを見て学ぶ    | 1    | 0    |
| 午睡チェック表を見て学ぶ        | 1    | 0    |
| 月案を見手学ぶ             | 1    | 0    |
| 地域の子育て支援に参加する       | 1    | 0    |

実習によって実践を学ぶが、子育て支援に関する学びは特に私立園において低く、20%にも満たない。机上で子育て支援の重要性について学んでも、実践が伴わないカリキュラムになっていること、その結果、学生の子育て支援への不安は高くなる結果となった。

## 調査 II

### 方法

**対象者** 全国の保育士 30 名(平均 30.3±12.1 歳)、保育経験歴の平均は 9.62±9.07 年。

**質問紙** 子育て支援力を高めるために必要な養成中の経験や学ぶべき事項と、子育て支援の難しさの 2 点について自由記述で回答を求めた。

**手続き** 調査協力園に研究目的と概要、個人情報保護等を説明し、インフォームドコンセントを得た。各自回答用紙を封筒に入れ封をしたものを園でまとめて郵送してもらった。自由記述で得られたデータは、フリーソフトウェア KH Coder ver. 2.00 で分析した。「子ども」「こども」や「関わり」「かかわり」などは同一語として抽出した。

### 結果と考察

子育て支援力につながる経験についてたずねた自由記述の結果を Tab. 2 に、それに基づき形成された共起ネットワークを Fig. 1 に示す。経験すべき内容において最も多く出現した語は「保護者」(14 回)で、「理解」「学ぶ」「聞く」のネットワークが形成されている。また、子育てに関する実習等の経験、保護者の声を実際に聞く経験、こども理解に関するネットワークが形成された。

直接多くの人とかかわる経験を増やしておくことが支援力を高めることにつながるが、同時に、家庭状況等、個人情報やプライバシーへの配慮等、

Table 2 子育て支援力につながる経験の頻出語 (4 語以上)

| 頻出語 | 回数 | 頻出語 | 回数 | 頻出語  | 回数 |
|-----|----|-----|----|------|----|
| 保護者 | 14 | 実習  | 5  | 経験   | 4  |
| 子育て | 8  | 保育  | 5  | センター | 4  |
| こども | 7  | 実際  | 5  | 現場   | 4  |
| 支援  | 7  | 理解  | 5  | 必要   | 4  |
| 聞く  | 7  | 話   | 5  | かかわる | 4  |
| 知る  | 6  |     |    |      |    |

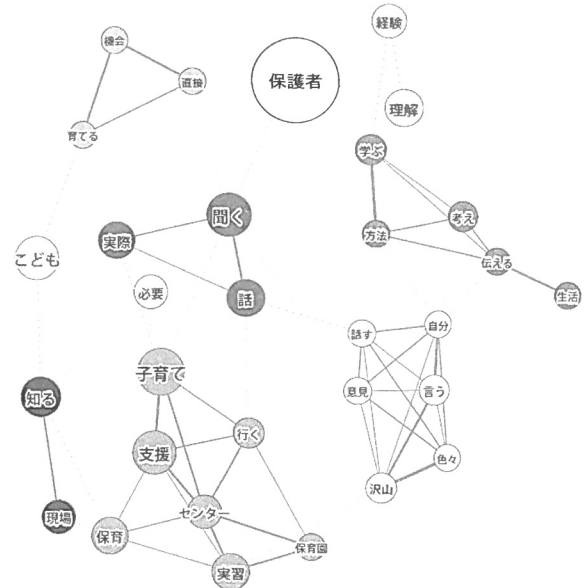


Figure 1 共起ネットワーク

学生一人ひとりの情報管理能力も必須となる。保育者養成校の責務として、学生の情報管理能力を高めるカリキュラムを基に、実践の場で学ぶ経験を増やす必要がある。子育て家庭を支える専門家を育てる養成校と実習園が共通理解を図り、社会的使命のある保育士養成において協力体制を作り、学びの場を見直す必要があることを示唆する。

また、子育て支援の難しさについてたずねた結果を Fig2 に示す。保護者との子育て観、保育観など価値観や考え方の違いによる支援の難しさが最も多く、次いで「子育て経験がないこと」での難しさが 32%と続いた。自由記述より、子育て経験のない保育士が子育て支援をすることへの罪悪感を抱き、この心理が自信のなさにつながっていた。

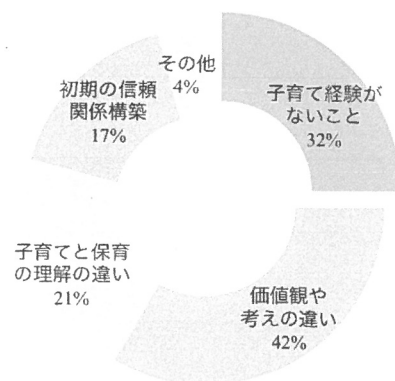


Figure 2 保育士が感じる子育て支援の難しさ

### 調査 III

調査 II では、子育て経験のない保育士は、「子育て経験がない中で支援している罪悪感」を感じていた。また、「子育ての難しさは経験した人にしかわからない」と保護者から言われてしまう苦しさを感じながらサポートしている保育士もいた。

そこで調査 III では、「この気持ちは経験した人にしかわからない」と発言する人のパーソナリティ特性を明らかにし、この言葉をどのように受け止め対応すべきかを検討した。

#### 方法

**対象者** 関東の短大に通う女子学生 18~28 歳までの 155 名(平均 19.2±1.2 歳)。

**手続き** 調査目的、データの扱い方や個人情報保護等を説明しインフォームドコンセントを得た。質問紙は一斉に配布し回答後に回収した。

#### 質問紙 [表面]

質問 1 「とてもつらいとき、“このつらさは経験した人にしかわからない”と思ったことがある」

質問 2 「とても悲しいとき、“この悲しみは経験した人にしかわからない”と思ったことがある」

質問 3 「悩みやストレスがあるとき、“この気持ちは経験した人にしかわからない”と思ったことがある」(質問 1~3 は 5 件法)

質問 4 「この気持ちは経験した人にしかわからないよ、と言われたらどんな気持ちになりますか」(質問 4 は自由記述法)

#### [裏面]

「日本語版 TIPI-J」(外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性)

**分析方法** 質問 1 から 3 を目的変数とし、TIPI-J の外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性の点数を説明変数として重回帰分析を行った。重回帰分析を行うにあたっては強制投入法を用いた。

#### 結果と考察

「この気持ちは経験した人にしかわからない」という言葉を受信したとき、何らかの感情が生起することが明らかとなり (Fig3)、「呆れや怒り」が 33.4%、「距離感」と「悲しみ」が 19.4%、「困惑」が 13.9%、「謝罪の念」が 6.9%、「見下され感」が 2.8%、「もどかしさ」が 2.8%、「つらさ」が

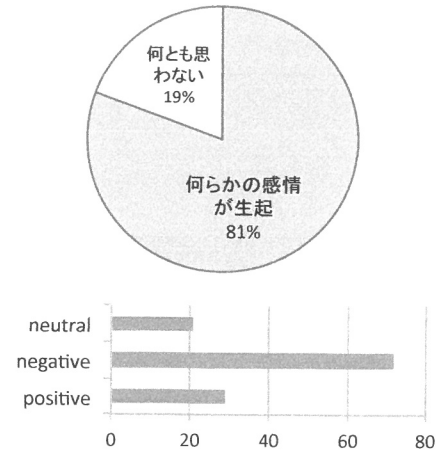


Figure 3 「この気持ちは経験した人にしかわからない」という言葉を受信した人の感情生起

1.4%で、ネガティブな感情が多く生起する一方、「共感」23.8%、「納得」17.2%とポジティブ感情も生起していた。

TIPI-J の平均は、外向性 (8.94 ± 0.22)、協調性 (9.51 ± 0.17)、勤勉性 (6.09 ± 0.17)、神経症傾向 (9.38 ± 0.2)、開放性 (7.63 ± 0.19) だった。

また、「悩みやストレスがあるとき」に「この気持ちは経験した人にしかわからない」と思ったことがあるかを目的変数としたとき、 $R^2 = 0.106$  とあてはまりはよくない回帰式が得られたが、有意な説明力のある変数 ( $p < .001$ ) であった (Fig 4)。

「経験した人にしかわからない」という言葉は、相手との間に距離感を作り、「だったら言わないでよ」という呆れや怒りなど、ネガティブな感情や不快感を受信者の心に残すことになることがわかった。しかし、「このストレスや悩みは経験した人にしかわからない」と感じ、発信する人のパーソナリティ傾向として、神経症傾向 (正) と協調性 (負) が有意に影響を与えていることも明らかとなった。

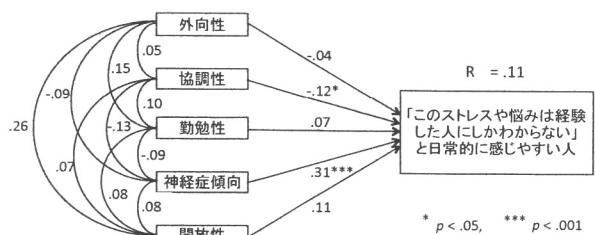


Figure 4 「この気持ちは経験した人にしかわからない」という言葉を発信する人のパーソナリティ傾向

神経症傾向は心配性や情緒不安定と関連している。このことから、対人援助場面においては、表面的な言葉に揺さぶられることなく、発信者のパーソナリティ特性や精神的状態を含めながら、言葉の意味や真意、本質を理解していく必要がある。

#### 調査 IV

##### 今後の研究の方向性

保育士が行う子育て支援には、保護者—子ども—地域の関係性を把握し、この関係性を高めていくことも役割の一つである。保育所は、地域に開かれていなければならない、地域の家庭に子育て情報や交流の場を提供したり、相談援助を行ったりすることは社会的役目でもある。

そこで調査 IV では、愛媛県西予市で地域の親子を対象に子育て支援活動を行う夫婦と、活動に参加している親子、地域住民の方々を対象にインタビュー調査を行った。調査から見えたのは、以下2点である。

- ✓ 地域資源を活用することが地域交流を生み出す
- ✓ こどもが地域の中で豊かにあそぶことは、地域の文化や生活の学びと獲得につながる

調査 IV の結果から、こどもが生まれ育ち、生活している「地域」を豊かに活用していくことで、自然と地域交流が発生していることが明らかとなった。

今後は、保育所が地域に開かれた交流の場になっていくためには、どのような環境操作が必要か、アフォーダンスとデザインの視点から研究を進めていく。

調査地 東京都調布市にあるカフェのテラス席  
方法 テラス席の物的配置 × 行動分析

↓  
視線や注意維持時間、交流回数  
会話内容などの分析

アフォードとは、環境が知覚に与える情報のことをいう。環境が人の動きや注意に影響を与え、

結果、見知らぬ人と自然なコミュニケーションが生まれるとき、その環境とはどのような環境であるのか、要因を見出すのが本調査の目的である。



要因① 動物？



要因② 物的環境？

要因③ 動線？

要因④ こども？

今後の調査結果により、以下の3点を保育の現場に持ち込み、科学的な視点から地域交流を生み出せるよう貢献していく。

- ✓ アフォーダンス × デザインから、人と人との交流が自然発生するしかけ作り
- ✓ 保育所が地域交流を発信するしくみ作り
- ✓ アフォーダンス × 保育環境という視点

#### 引用文献

- 石川昭義・堀美鈴 (2010) 今日の社会における子育て支援の意味と保育士の役割. 仁愛大学研究紀要, 2, 81-95.
- ベネッセ教育総合研究所 (2016) 「第5回幼児の生活アンケート」  
(<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4949>.)
- 小塩真司・阿部晋吾・カトロニピノ (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21, 40-52.